

# いの流水俳壇

松尾 満津於選

## 「当季雑詠」

鮎釣や腰に流れをまきつれて

岡本 友子

(評)夏の鮎掛け漁を想起する。鮎の瀬の中に立って釣りをしている様子が「流れをまきつれて」と表現されている何でもないような言葉であるが、この表現は云えそうで、仲々むつかしい。この句の主は当人ではなく、傍で高みの見物をしてる第三者であろう。そうでなければ、こんなびやかな情景は出てこない。

## 五月尽十字に結ぶ古雑誌

友草 水月

(評)余計な鑑賞を加えると蛇足になるので、控えたいと思うが、この句、読み古された雑誌に紐を掛けている。五月尽とあるから春も終る頃、家の中に溜った古

本・古着・ゴミ等の片付け、後始末を収集日に合わせて片付けているのである。紐で十文字に縛られ梱包された不用品が片付けられていく。

梅挽ぐや梅漬談義弾みおり

川村 博子

(評)数日塩漬けにした梅を一先づ陽に曝し紫蘇を加えて漬けなほし、更にこれを干すのである。一夜干して露に当てるならはしがある。梅を干すのは土用中がよいとされ、隣近所の「井戸端談議」がはずんでいる様子がよくわかる句。

弘瀬うき子

(評)情景は至極平凡。棚田の畦道あたり

であろうか。立話をしているのは農婦同士の顔見知り、農家の主婦、話す内容もおよそ見当がつく。たわいない世間話しに無為な時間が費される。そのことに気が付いて、あくせくするような間柄ではない。うぐいすの鳴き声が遠く近くにあつて実に平和な日常を見せた句。

里山の境界線や栗の花 大川 節弥

ぜい肉を気にしながらの更衣 中野 好子

紫陽花や我の心も七変化 森岡 照月

明易し残る疲れを連れて起く 竹崎 光子

幸せな貌の並びて初鯉 片岡 包女

梅雨晴間家蒼むほど風入れて 刈谷 志津

猿田洞水の匂ひの堂狩 植田 紀子

合歡の花童と犬の多き地区 津田 久美

山禽の澄みたる声や青高野 井上 郁子

生まれ変はるなら夏風もいいなあ 秋田 律子

農を継ぐ子に田植機の新らしく 間 浩太

鳥声の高さにありて春の雲 筒井 一平

つばくらめトーストポイント接ね上る 間 信子

開け放つ寺百畳の梅雨晴間 松尾満津於

## 次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月第2月曜

## 投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

ご案内

## 「カルシウム たっぷり料理教室」

高齢化社会を迎え、骨折で寝たきりになるケースが増えています。寝たきりにならないためにも丈夫な骨作りが不可欠です。この機会に骨を強くする運動とカルシウムたっぷり料理について一緒に学びませんか。

日時 9月6日(日)

9時30分～13時

受付 9時～

場所 すこやかセンター伊野

## 内容・講師

☆骨を強くする運動  
理学療法士 池 博之  
☆カルシウムたっぷり料理  
管理栄養士 新谷美智

参加費 500円(材料代)

## 持参品

運動できる服装  
エプロンか前掛け、三角巾

## 申込・問い合わせ

仁淀病院総務係  
☎ 893-11551

主催 仁淀病院健康いきいき教室